日本ＰＴＡ全国研究大会川崎大会に参加して　　福井県参加者の声

◆ ウェルビーイングを意識し、「楽しむ」人生を送ることにより個人の幸福感の醸成と、そこから社会貢献への「場」の醸成に繋がっていくことが印象に残った。

◇ 一番心に残った内容としては、「子供と血は繋がっていても、人生までは繋がらない」の言葉でした。我が子の教育として、自分はこうした方がいい、自分はこうしてきたと、言い聞かすことが子供のためかと思っていましたが、振り返ってみると自分の都合のいい子供にしたかっただけなのかと深く反省も感じました。これからは、子供がやりたい事をやりたい様に出来る環境をつくっていく努力をしていきたいと思います。

◆ 安心、自信（自己肯定感）の根をはって、意欲（主体性）の幹を育てれば、知識やコミュニケーション力、創造力、思考力、表現力、発想力などは葉として後からついてくるという、子どもを木に例えた子育ての例が印象的でした。 非認知能力を高める！ 子育ては、親子関係と自己肯定感！ 褒める！

◇ 講師ご自身の PTA での 8 年にわたる経験を元に、皆が楽しめる PTA の運営の仕方や、ウェルビーイングな社会についてお話いただきました。ありのままの自分を愛しまずは自分自身が幸せであることは自分だけでなく人のためになるということ、そして幸せは伝染するという言葉が印象的でした。

◆ セッション 2 の自己肯定感と親子の関係の話を聞いた時は今までのやりたい形が明確化したのが凄く嬉しかった、

◇ 西野氏の講演はみんなにも聞いてもらいたい。もっと聞きたい。と思う内容でした。
ずっと子どもたちのことを考えて「子ども権利条例」「子ども夢パーク」に取り組んでこられた生の声の説得力はすごかった。

◆ 全体を通して親が子供をどのように見てたか、接しているのが反省することだらけでした。
親も人なので感情もありますが、子供はもっと繊細で感受性豊かなので子供の目線で接してあげる方が大切なのかなと思いました。
親のエゴで話したりせず、色々聞いてあげたり話したりしようと心しました。

◇ 「違い」を認め合うことができ、信頼関係を構築することが「場」を作るベースになる。個人の幸福感の連鎖を起こすことで心理的安全性が構築できれば持続可能な社会貢献の「場」が「縁」により達成出来るのではないかと感じた。

◆ 内田教授のｳｪﾙﾋﾞｰｲﾝｸﾞについて
生徒個人や教員個人が幸せで終わるのでは無く、全体(生徒、教員)が持続的に良い環境を保つために、何をすべきか考え、取り組みすることが、学校の幸せ、地域の幸せに繋がることを学びました。
また、世界における日本のｳｪﾙﾋﾞｰｲﾝｸﾞ指標は低いため、一人一人が意識して取り組む必要性がある事を実感しました。

◇ 以前から不満に思っていた画一的で単純な日本の教育について、ウェルビーイングという切り口から突っ込んだ講演や議論がなされており、自分の頭の中が整理されました。 学校が変わらなくても、家庭内では、「子供に影響の大きい、親、として」子供たちが自分なりの幸せを見つけていけるような声かけや教育をしていきたいと感じました。

◆ 参加者からは変化をするにはパワーが必要で大変だから、結局、前例踏襲になってしまうとか、でも変えていかなくちゃいけないから、その気持ちをこの大会でいただいたとか、変化をしても熱い思いが途切れてまた変化を繰り返すのでは大人の都合で子どもが振り回されるといった意見が出た。 熱い思いを引き継ぎ、いい活動を継続し続けるように核となる人物の存在やその思いを引き継ぐ後継者の育成が大切。
今回紹介された事例や、大会を通して知り得たウェルビーイングを実現するための活動を参考に、福井県でも何か始めないといけないなと感じました。

◇ いかに、子供たちの為に周りの大人たちが、負担や苦痛と感じず、幸せ感じる活動ができる環境があれば、子供たちはそれ以上の幸福感を得られるのではなかろうか。
活動するうえで、必要な物は残し、なくても良いと思えるものは辞めるのはありだと思う。
昔のように、子育て、親育てを地域全体で行うことで、地域活性化につながるのは当たり前だと思うが、なかなか難しいことではあるのかと感じます。

◆ 子どもたちが成長する過程の中で、それを支える大人たちが子どもたちと一緒に楽しみ、また、場合によっては大人たちが楽しむことで子どもたちが楽しめるような活動を無理しない範囲で行う。
大人は役割、立場、環境などそれぞれの背景で出来ることは異なるが、前例踏襲に拘らず、その時に関わる人たちがやり易い方法を選択する自由を、周囲の人が認めることが当たり前になる必要がある。　自分だけが正しいのではなく、多様性を受け入れることが大切。

他県・市Ｐ参加者同士が、様々なテーマで自分たちの取組みや思いを分かち合いました！！